

2022年度 第四回技術委員会 (合同委員会)

2023年2月21日(火)

Web開催



主な内容

1. 2022年度技術委員会メンバー
2. 今期の取り組みについて
3. 申請状況について
4. 申請方法の確認、変更について
5. WG活動報告
6. その他

技術委員会メンバー

既存登録会社48社90名

株式会社オクト(2023/2/21担当)

光明理化学工業株式会社(除)

株式会社JVCケンウッド

新コスモス電機株式会社(2019/4/19済)

株式会社タニタ(2019/6/24済)

中央自動車工業株式会社(2019/10/24済)

東海電子株式会社(2019/12/3済)

株式会社東洋マーク製作所(2020/2/25済)

ドレーゲルジャパン株式会社(2020/7/14済)

NISSHAエフアイエス株式会社(除)

株式会社ネモト・センサエンジニアリング

(2020/10/14済)

株式会社パーマンコーポレーション

(2021/2/24済)

株式会社パイ・アール(2021/5/27済)

フィガロ技研株式会社(2021/10/13済)

前野技研工業株式会社(2022/7/29済)

株式会社ヤナコ計測(2022/10/26済)

アイグッツ株式会社

株式会社アサヒ企画

あすまる株式会社

エスケイジャパン株式会社

MIクリエイションズ株式会社

NCY株式会社

株式会社エフェクト

株式会社オウルテック

株式会社オクト

株式会社オムニ

株式会社キングジム

株式会社グロックス

株式会社コムテック

株式会社コンテック

SANKEIプランニング株式会社

株式会社サンクラウド

鈴与シンワート株式会社

SEIKOIST株式会社

センスエアエービー

(旭化成エレクトロニクス株式会社)

大自工業株式会社

株式会社天時情報システム

株式会社東京企画

株式会社東計電算

株式会社ドウシシャ

トライポッドワークス株式会社

株式会社ドリテック

日本鋭明技術株式会社

株式会社藤田電機製作所

株式会社ユアーショップ

株式会社ユビテック

株式会社ライノプロダクツ

株式会社レッツ・

コーポレーション

(会社名のみ・アイウエオ順)

技術委員会メンバー

新規登録会社16社

新東工業株式会社

株式会社SREE

小林薬品株式会社

有限会社ドリームチーム

株式会社イズムシステムインテグレータ

TML株式会社

NHPソリューション株式会社

株式会社セイワ

株式会社ミツバサンコーワ

株式会社SGST

株式会社ファーストシステム

株式会社カスタム

アイリスオーヤマ株式会社

株式会社高昇

エレコム株式会社

Dahua Technology Japan 合同会社

今期の取り組みについて

- 外部検定の運用及び新方式の申請対応
- JB10規格英文化対応
- JB20規格運用に向けた対応
- アルコールガスのトレーサビリティ調査
(ドライーウェットガスの相関関係等)

2020年度～2023年度の活動計画(案)

項目	活動内容	2020年度				2021年度				2022年度				2023年度			
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
①自主検定	自主検定合格品有効期限																
②外部検定	JB10000検定運用																
	JB10001維持審査																
③規格WG活動	JB20001規格策定																
	ISO/TC272対応																
	CERIとの運用協議																
	CERIの設備整備																
	プレテスト																
	JB20001検定運用																
	④ガスWG活動	Dry-WetGas関連評価/評価機関調査等															
	Wet試料液検討評価(ReCCS)																
⑤義歯安定剤WG活動	義歯安定剤連絡会対応																
⑥その他技術的対応	J-BACのHP等からの技術的相談対応																

■ 作業完了 ■ 作業予定
⊠ 作業追加 ⊠ 未実施

2022年度外部検定運用

2022年7月1日より新方式での検定運用開始

変更内容: 検定審査会での書類審査を外部機関(CERI様)へ移行

7月1日以降の申請状況

7月～8月: 新規 16件

維持 2

旧①～④班

9月申請: OEM申請 1

特班

10月以降の申請状況

10月～12月: 新規 7

維持 1

新①～③班

特班 : 同一機種申請 3

今後とも検定審査会(班)の
対応宜しくお願いいたします。

検定審査会グループ

登録会社47社

12グループを予定 申請会社以外に割り振る

①新コスモス電機株式会社(リーダー)

①アイグッツ株式会社

①株式会社アサヒ企画

①あすまる株式会社

②ドレーゲルジャパン株式会社(リーダー)

②MIクリエーションズ株式会社

②エスケイジャパン株式会社

②NCY株式会社

③株式会社パイ・アール(リーダー)

③株式会社エフェクト

③株式会社オウルテック

③株式会社オムニ

④株式会社タニタ(リーダー)

④株式会社キングジム

④株式会社グロックス

④株式会社コムテック

※2月度対応中

⑤フィガロ技研株式会社(リーダー)

⑤株式会社コンテック

⑤SANKEIプランニング株式会社

⑤株式会社サンクラウド

⑥中央自動車工業株式会(リーダー)

⑥鈴与シンワート株式会社

⑥SEIKOIST株式会社

⑥センスエアエービー

(旭化成エレクトロニクス株式会社)

検定審査会グループ

登録会社44社

12グループを予定 申請会社以外に割り振る

⑦前野技研工業株式会社(リーダー)

⑦大自工業株式会社

⑦株式会社天時情報システム

⑦株式会社東京企画

⑧株式会社パーマンコーポレーション(リーダー)

⑧株式会社東計電算

⑧株式会社ドウシシャ

⑨東海電子株式会社(リーダー)

⑨トライポッドワークス株式会社

⑨株式会社ドリテック

⑩株式会社東洋マーク製作所(リーダー)

⑩日本鋭明技術株式会社

⑩株式会社藤田電機製作所

⑪株式会社JVCケンウッド(リーダー)

⑪株式会社ユアーショップ

⑪株式会社ユビテック

⑫株式会社オクト(リーダー)

⑫株式会社ライノプロダクツ

⑫株式会社レッツ・コーポレーション

**OEM申請、同一機種申請、仕様変更届対応
特別検定審査班**

○光明理化学工業株式会社

○NISSHAエフアイエス株式会社

○株式会社ネモト・センサエンジニアリング

○株式会社ヤナコ計測

申請方法の確認・変更について

2022年7月1日より新方式での検定運用開始

変更内容: 検定審査会での書類審査を外部機関(CERI様)へ移行

認証審査の流れ(詳細は「アルコール検知器検定制度」参照)

- ①申請申し込み: 様式1, 2, 3およびマーク付き取説をメールにて技術委員長(三浦)へ送付

申請の受付受理不受理判断

- ②検定審査会審査: 検定審査会(班)にて書類確認

申請の受理不受理判定

※どちらも受理不受理の判断、判定をしますが、内容の詳細確認やコンサルタント対応は実施しません。

申請方法の確認・変更について

認証審査の流れ

- ③ 検定審査・監査・試験：**外部機関へ直接申請**
 - 1) 書類審査(ガイダンス審査)
 - 2) 現地監査(サイト審査:品質保証体制監査)
 - 3) 上記監査時に試験サンプルの採取
 - 4) 検定試験
 - ④ 試験報告および合否判定:検定審査会(班)より連絡
 - ⑤ 認定番号の付与および認定合格証発行:事務局
 - ⑥ ホームページへの掲載:業務委員会Web/IT班
- ※現在HPに「よくある問合せ」を開設準備中

申請方法の確認・変更について

審査時の注意事項

- ・最終出荷場所について

最終出荷場所が複数個所ある場合は様式2. の1. 当該機器の製造の【最終試験(出荷)場所】に全て記載し、その関連性を明記する。

この明記事項により【最終試験(出荷)場所】が複数ありとなった場合はすべての場所がサイト監査の対象となる。

- ・取扱説明書について

新規申請: 外部機関の書類審査時に指摘を受け修正を行った場合、現地(サイト)監査までに改版する。

申請方法の確認・変更について

審査時の注意事項

- ・現地監査(サイト審査:品質保証体制監査)について

審査は**様式2**の表に記載されている事項を**書面**にて確認します。

1. 当該機器の製造

【原産国】【最終試験(出荷)場所】【品質保証体制】

2. 識別及びトレーサビリティ

【製品の一意的識別方法】

3. 監視機器及び測定機器の管理

【検査装置、検査ガス概要等】

4. 製品の監視及び測定

【受入検査及び試験】【途中工程の検査及び試験】【検査及び最終試験】

5. 不適合製品の管理

【除去措置】【特認(特別採用)措置】【回収措置】

申請方法の確認・変更について

審査時の注意事項

- ・各申請、監査、試験の不合格後に関して
現在、上記不合格になった後、外部機関様へ長期間連絡がない企業様が数社おられます。
長期連絡がない状態が続きますと、協会側の台帳と外部機関様の進捗管理が合致しないなどのケースが生じ始めております。
今後の対応として、外部機関様との協議になりますが、
「連絡が●ヶ月ない場合は、中断通知とともに一旦審査等を中断処理し、再開する際には技術委員長まで再開の申請を行う」
ことを検討しております。

申請方法の確認・変更について

審査時の注意事項

- ・各申請、監査、試験の不合格後に関して
不合格後、仕様変更を実施し、最初の申請時と取説レベルで変更が生じた場合、当協議会、技術委員会にて管理している資料と違いが生じますので、必ず変更した資料を技術委員長までご提出願います。
尚、機器自体の機能、性能が明らかに変更されるとみなされた場合は、特別検定審査班の判断により、仕様変更届けの提出、もしくは再申請の対応を実施いただくこととなります。

申請方法の確認・変更について

審査費用に関して

・報告書費用に関して

ホームページの「新規入会の申込方法外部検定(JB10002)の申請から認証までの流れ」に関して費用関連が分かり辛い表記となっており、**⑥⑦の項**を修正しました。

- ⑥認定の概算費用ですが、書類審査費用：**40,000 円**(税別)+現地審査費用：**110,000 円**(税別)+外部機関試験費用：概算 **160,000 円**(税別)+交通費(別途実費)となります。 **※金額は個別に係る概算の最大金額(この文章記載なし)**
※各費用には報告書代が含まれております。各審査、試験が不合格になった場合でもその項目おきにその都度、上記費用が発生します。また、再申請、再試験時には同額の費用がその都度発生します。
- ⑦認証を維持継続させるためには、年1回の維持監査(1機種毎に **15万円**(税別))、5年に1回の更新監査(初回審査と同じ費用)が必要となります。

申請方法の確認・変更について

審査費用の例(報告書の発生箇所)

1) 全て合格となった場合

書類審査費用(合格) + 現地審査費用(合格) + 実機試験費用(合格) + 「報告書」 + 交通費

2) 書類審査で1度不合格になり再申請後合格し、後も合格の場合

書類審査費用(不合格) + 「報告書」 + 再書類審査(合格) + 現地審査費用(合格) + 実機試験費用(合格) + 「報告書」 + 交通費

3) 現地審査で1度不合格になり再申請後合格し、後も合格の場合

書類審査費用(合格) + 現地審査(不合格) + 「報告書」 + 交通費 + 再現地審査費用(合格) + 実機試験費用(合格) + 「報告書」 + 交通費

4) 実機試験で1度不合格になり再試験後合格の場合

書類審査費用(合格) + 現地審査費用(合格) + 実機試験(不合格) + 「報告書」 + 交通費 + 再実機試験費用(合格) + 「報告書」 + 交通費

※再実機試験でも試験用の実機を抜き取りに行くため交通費がかかります。

このほか同じ申請、試験に2度3度不合格になったり、複数の申請、試験で不合格になるパターンもあります。

申請方法の確認・変更について

審査費用、見積書（外部機関様の対応について）

※ 2023年2月申請分より以下の対応とする。

- **新規顧客に限り**、申請の依頼連絡 → 見積書発行（基本料金として
事前書類審査：30,000円＋現地審査：100,000円＋実機試験：135,000円
＋報告書費用：10,000円＋消費税：27,500円の計302,500円、備考欄に
交通費別途請求）→ 申請会社より試験依頼書受領 → 請求書発行
（事前書類審査：30,000円＋報告書費用：10,000円＋消費税：4,000円の
計44,000円）→ 入金確認後申請開始

申請方法の確認・変更について

審査費用、見積書（外部機関様の対応について）

※ 2023年2月申請分より以下の対応とする。

- **既存顧客**は申請の依頼連絡後見積書を希望された場合、見積書発行（基本料金として：事前書類審査：30,000円+現地審査：100,000円+実機試験：135,000円+報告書費用：10,000円+消費税：27,500円の計302,500円、備考欄に交通費別途請求）→ 申請会社より試験依書受け取り → 申請開始（**費用請求は後から実施**）

※ 現状と同様です。

申請方法の確認・変更について

審査費用、見積書（外部機関様の対応について）

※ 2023年2月申請分より以下の対応とする。

・「現地審査」「実機試験」は、新規顧客、既存顧客とも費用請求は後から実施

※約款は先請求だが、内部ルールとして、お取引実績のある会社は基本的に後払いであるので、先請求部分のお支払いをもってお取引実績とみなし対応する。

※途中不合格となった場合には、発生しなかった費用を差し引いた請求書を報告書と一緒に送付。

申請方法の確認・変更について

審査費用、見積書（外部機関様の対応について）

※ 2023年2月申請分より以下の対応とする。

- ・不合格の対応に関しては、不合格になった時点で報告書の発行、費用請求、入金確認をもって完了とする。
再申請、再試験を希望される場合は再度試験依頼書にて、不合格となった申請、試験からの再開を依頼する。
再開時の費用は再開される申請もしくは試験以降の費用＋報告書費用＋消費税＋交通費となる。

※ 現状と同様です。

規格WGについて

○ JB10整備、英文化およびJB20, JIS等対応

参加表明メンバー

旭化成エレクトロニクス: 吉田様、清山様(2022年12月より)

光明: 畑(リーダー)

タニタ: 金成様

東海電子: 杉本様、高木様、植松様

NISSHAエフアイエス: 常深様、柳谷様

ネモト・センサエンジニアリング: 三浦様

フィガロ技研: 河口様

ヤナコ計測: 上西様

※ 随時ご興味のある企業様の参加をお待ちしております。

規格WGについて

2022年度第三回技術委員会にて
今後について

- JB10001
 - 英訳文書の再確認作業
 - 2022年度秋頃HPに掲載予定

- JB20001
 - イミュニティー試験先の決定
 - CERI様訪問によるトライアルの実施
 - 2023年度運用開始を目標

- ISO化
 - 他機関の調査検討
 - JCCLS対応 → 坂口幹事より10/14対応済み

規格WGについて

JB00, JB10について
英訳化

10/6-7: 第四回規格WG実施(他WGと共に)
→ 英訳文書の確認作業 → 修正依頼

10月末: 修正完了

11/21: ウェブ IT 班の細川様よりJ-BACのHPにアップ連絡

終了

規格WGについて

JB00, JB10について(続き)

- ・フローメーターの導入(CERI様-タニタ様にて実施中)
 - 2/2(木)CERI様訪問JB20001トライアル時に確認
- ・販売ガイドライン「電源電圧変動が性能に影響を与える場合きちんと説明しているか」について(CERI様より)
 - 取説に電池がなくなった際の表示があるかないかの確認(液晶表示、LED表示等)の対応へ変更(2023年度より)
 - 様式2, 6項について修正が必要か？
 - 6項) 電源電圧変動が性能に影響を与える場合きちんと説明しているか。

規格WGについて

JB20について

- ・2月2日(木)にトライアル試験の実施
- ・参加メンバー

技術委員長: ネモト・センサエンジニアリング 三浦様

ガス吐出装置確認: タニタ 金成様

トライアル提供: 東海電子 高木様

フィガロ技研 河口様

中央自動車工業 高橋様

東洋マーク製作所 川畑様

規格WGリーダー: 光明 畑

CERI: 秋間様、中島様、小林様、福富様
上原様、中澤様(名刺交換のみ)

規格WGについて

JB20について(続き)

・CERI様訪問時の工程(予定)

場所	時間				
① 大会議室	13時00分～13時10分	ご来所、控室移動			
② 標準A	13時10分～13時20分	基本的なガス試験実施部屋の確認 (移動中に恒温恒温槽あるが室内環境(溶剤等)の関係でおそらく使えない部屋の確認)			
③ 高分子	13時20分～14時20分	6.6.4 温度の影響 第4ステップの確認 「+5°Cまたは製造事業者が規定した最低動作温度」 ガス試験」 (第5ステップ、第6ステップのセット)			
④ 標準B	14時20分～15時30分	6.6.6.1 最小体積の試験、6.6.6.2 呼気中の体積及び時間の影響 6.7.2自由落下 試験面コンクリートの確認 そのほか現地確認あれば (休憩)			
⑤ 標準B or 大会議室	15時30分～16時00分	JB20全体の確認及びEMC試験について、各種周辺機器の校正について			
⑥ 高分子	16時00分～16時50分	6.6.4 温度の影響 第7ステップの確認 「+40°Cまたは製造事業者が規定した最高動作温度」 ガス試験」			
⑦ 大会議室	16時50分～17時00分	クロージング			
標準A	時間ゆとりがあれば	ストレス後のガス試験6.7.3.1, 6.7.3.2, 6.7.3.3の実施			

規格WGについて

JB20について(続き)

- ・規格WGとしてのトライアル項目
 - ・6.6.6.1 最小体積, 6.6.6.2 呼気中の体積及び時間の影響
(フローメーターの動作確認、流量の違いによる指示確認)
4社全て実施
 - ・6.6.4 温度の影響, 6.7.3.1 低温, 6.7.3.2 乾熱, 6.7.3.3 湿熱
(CERI恒温槽の確認、ガス試験の方法確認、
温湿度ロガー履歴の確認、指示確認)

トライアル費用: 40.7万円(税込)・・・2022年度技術委員会予算で対応

規格WGについて

JB20について(続き)

- ・6.6.4 温度の影響: 第4ステップ「+5°C」の確認, 試験濃度:0.15mg/L
恒温恒湿槽の確認、設置部屋の確認(高分子室)
湿度制御をOFF湿度表示99.9%RH → JB20規格に湿度記載なし
→ 湿度条件を追加する必要あり → 50%RHとする(第6回規格WGにて)
→ 測定は恒温槽から取り出して実施
(恒温槽の外にシミュレーターを設置し、取り出し後速やかに測定)
測定後恒温槽に戻し、2分後再度取り出して測定(5回繰り返す)

測定結果

- 1回目:0.11mg/L 2回目:0.14mg/L 3回目:0.12mg/L
4回目:0.13mg/L 5回目:0.14mg/L 通常ここで終了 → 3回延長実施
6回目:0.14mg/L 7回目:0.14mg/L 8回目:0.13mg/L
→ 取り出しによる機器の温度補正等の影響か? → 手法等再度WGで協議

規格WGについて

JB20について(続き)

- ・6.6.6.1 最小体積, 6.6.6.2 呼気中の体積及び時間の影響

フローメーターについて

→装置のスイッチング電源と電空レギュレータから発生するノイズ
対策の改修が必要(アースの結線とフェライトコアを追加)。

→ デジタル流量計の表示に悪影響(ふらつき等)が出る可能性

○ 2月末にCERI様よりタニタ金成様へ返却予定 → 対策後返却

- ・6.6.6.1最小体積について

体積:0.6L, 時間:2秒間, 濃度:0.15mg/L(換算値18L/minで2秒間)

→ 5回繰り返し、全機器合格(測定しないもしくはエラー表示)

→ 機器動作の有無を確認するため、エタノールシミュレータは不要。
ブランク試験で行う。

(使用により濃度低下発生、CERI様ガス調整工程の削減)

規格WGについて

JB20について(続き)

・6.6.6.2 呼気中の体積及び時間の影響について

1) 体積:0.8L, 時間:5秒間, 濃度:0.15mg/L(換算値9.6L/minで5秒間)

→ 同試験4回実施

4社中3社がNG(吹込み不足エラー又は未検知)、1社平均0.17mg/L

2) 体積:1.2L, 時間:5秒間, 濃度:0.15mg/L(換算値14.4L/minで5秒間)

→ 同試験1回実施

0.18mg/L・・・1社, 0.16mg/L・・・2社, 0.13mg/L・・・1社

3) 体積:1.6L, 時間:5秒間, 濃度:0.15mg/L(換算値19.2L/minで5秒間)

→ 同試験2回実施

0.25mg/L・・・1社, 0.16mg/L・・・2社, 0.13mg/L・・・1社(平均値表記)

※指示値は5.6.2 数値の丸め方より、下3桁目切り捨てで表記

規格WGについて

JB20について(続き)

・6.6.6.2 呼気中の体積及び時間の影響について

1)のNGの原因:流量が少なく機器の圧力センサーが作動していないのではないか。

→ フローメーターの圧力を変えたり、シミュレーターを通さずに、直接Airガスを注入して確認。

→ シミュレーターを通すことで流量が変化している傾向はない。

→ 結果的に、流量10L/minを超えると検知 → 時間で調整する?

(流量12L/min, 4秒間の条件は、各社測定は可能)

低流量について・・・欧米人の肺活量に比べ、日本人の量が少ないため

→ EN, OIML規格値より低めに設定して経緯

体積値が重要?・・・終末呼気(肺の奥のガスを検知するため)

→ 安全管理の考えからすると、必要ない?

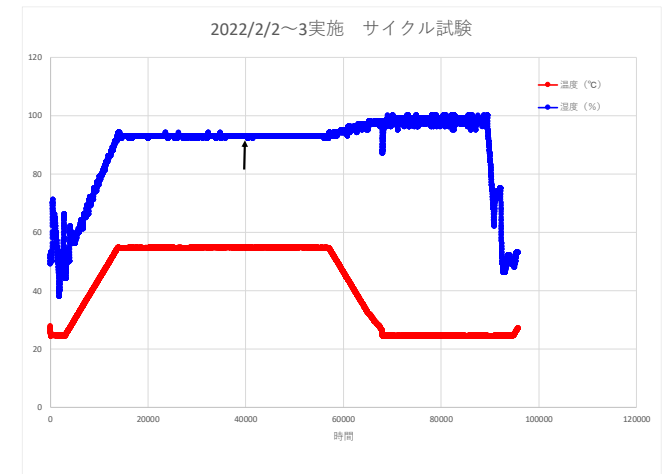
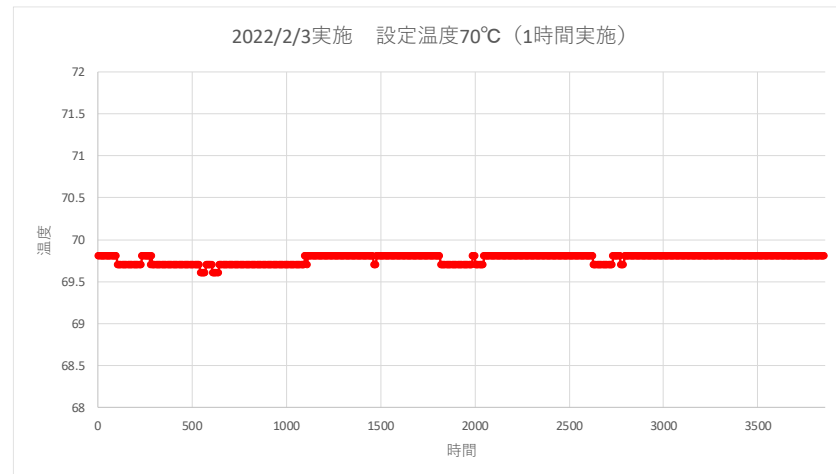
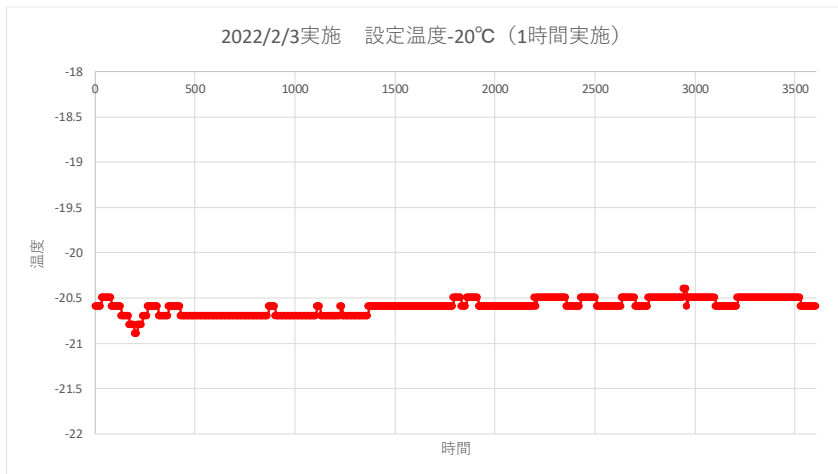
○ 試験条件の再検討が必要

規格WGについて

JB20について(続き)

- 6.7.3.1 低温, 6.7.3.2 乾熱, 6.7.3.3 湿熱については、時間の関係で、ストレス後の試験立ち合いできず。
→ 後日、特性結果及び恒温槽の温湿度の挙動について提示頂く。

下記は、2022年時にCERI様にてトライアルを行った際のデータ



規格WGについて

JB20の続き

- ・落下試験について

指定された面に若干傾斜有り → J-BACより平坦な場所を要求

- ・イミュニティー試験について

CERI様からの要望

電気系の対応が困難 → J-BACの協力が必要

前後のガス試験の対応は可能。しかし、静電/イミュニティー試験の立ち合い、実施は困難なため避けたい

→ J-BACとしての考え

すでに実施している機器：エビデンスを提出することで免除

実施していない機器：CERI様の検定試験を実施

→ 手法や費用などのことも考えて今後検討

規格WGについて

今後について

- JB10001
 - 電池対応等の規格修正(様式2の修正?)
 - NDIR仕様に対する規格対応(試験ガス等)

- JB20001
 - 2023年度運用開始への対応
(CERI様との最終運用調整、最終見積入手等)
 - JB20規格の見直し(第7回規格WG実施予定)
(温度試験、流量試験等)

2023年度4月開始は難しい → 2023年度夏を目標へ

- ISO化
 - 他機関の調査検討

アルコールガスのトレーサビリティ調査

○ ドライボンベガスとシミュレーター(ウェットガス)の相関関係調査

参加メンバー

光明理化学: 畑様

タニタ: 金成様

東海電子: 杉本様、高木様

NISSHAエフアイエス: 常深様、柳谷様

フィガロ技研: 河口様

株式会社 ネモト・センサエンジニアリング: 三浦

ヤナコ計測: 上西様(リーダー → 今期から暫定で三浦へ変更)

旭化成エレクトロニクス: 吉田様、清山様(2022年12月より)

12月20日(火): NISSHAエフアイエス様 会議室(およびWebのハイブリット)にてWG会議開催

- 今後の対応確認:
- ・WetとDryの相関性確認の試験をどのように行うか
 - ・最終的な基準器をどのように設けるか
 - ・今後、試験に賛同していただける企業を確認する。

その他

- 問い合わせ事項の対応は随時実施中
 - ※現在HPに「よくある問合せ」を開設準備中
- 質疑応答

2022年度活動スケジュール

2022年度技術委員会開催予定

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
技術委員会	●4/22 第八回定期総会 (Web開催) 第一回			●7月/29 (Web開催) 第二回			●10月26日 (Web開催) 第三回				●2月21日 (Web開催) 第四回	

●規格WG

- 5/25 第一回
- 6/17 第二回
- 6/23 第三回
- 10/6-7 第四回
- 12/20 第五回
- 1/6 CERI様訪問前事前打ち合わせ
- 2/2 CERI様訪問トライアル
- 2/13 第六回

●ガスWG

- 10/6 第一回
- 12/20 第二回

●義歯WG

- 10/6 第一回
(ペンディング)

今後の取り組みについて

1. 外部検定の運用の監視
2. JB10002 JB20001の対応
3. アルコールガスのトレーサビリティ調査の推進
4. 業務委員会様と連携し、「よくある問い合わせ」の編集
5. 2024年度以降の活動計画立案
6. その他HP等からの技術的相談対応

まとめ

2022年度に開始された白ナンバーの検査義務化により、認定品の重要性が増してきております。

委員会の皆様の引き続きご支援を宜しくお願いいたします。